

県民からの環境に関する主な意見

懇談テーマ：長野県の目指す姿・県にのぞむこと

会議名	月日	参加者	主な意見
「楽園信州」移住者交流会	H29.2	移住者等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の良さを活かし、エネルギー面などの先進的な取組をしてほしい
諏訪湖クラブ、信州ネットS UWAとの懇談会	H29.2	メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・水質データのみでなく、諏訪湖に関する様々なデータの一元化が必要 ・諏訪湖への流入河川及び集水域の管理のため、水量や水温の連続的な観測体制の構築 ・植生回復、水生昆虫などの総合的な生物調査の実施による生物多様性の保全 ・諏訪湖の周りで子どもたちが遊べる歩行者優先道などの整備 ・諏訪湖に対する市民の関心が薄れており、もう一度諏訪湖を見つめ直す必要があるのでは ・子どものための諏訪湖読本の作成やふれあいまつりなど子どもたちが集まれる機会の創出 ・諏訪湖に関する様々な資料を閲覧できるリストや場所の用意 ・諏訪湖全体を自然エネ(木質、温泉熱)のエリアに ・諏訪湖には手を入れすぎ。アオコがあった時の方がワカサギが釣れた。水はきれいになればよいということではなく、まずは箱作りが必要
自転車に安全安心・利用促進施策に関する意見交換(県内 10 所)	H29.1～ H29.2	交通安全関係者、自転車利用者等	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい山並みを望むことができる美しい街や里のある県 ・恵まれた山岳高原の特性を活かし、音楽や芸術分野のイベントが活発に行われる県 ・食料やエネルギーなどの自給率が高い地域 ・信州の特徴を活かしたサイクルツーリズムの推進 ・観光地の独自化と環境保全 ・コンパクトシティの促進
諏訪湖周サイクリングロード活用検討会	H29.2	観光事業者 自転車愛好家 行政機関等	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少は否めないが、自然とも共存しつつ、ゆったりと豊かに人々が暮らせる県 ・自然と芸術文化がマッチし、心豊かに暮らせるスローシティ的な生活が送れる県
諏訪地方事務所 河川・道路アダプト活動報告会	H29.3	アダプト活動団体代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客が遊び、楽しめる（自然に親しめる）場所づくり ・自然エネルギー、EV自動車などで空気をきれいに ・人口減少に伴って生じる空き地を利用して、緑化を進める
上伊那農業高校生との意見交換	H29.3	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々が環境について考え、行動する県 ・実際に環境保全活動をしている人のことを多くの人に知ってもらい、それが全県へ広がっていくための普及啓発が必要 ・野生鳥獣対策、森林の整備を進め、長野県の豊かな自然環境を守る

会議名	月日	参加者	主な意見
「楽園信州」移住者交流会※アンケート	H29.3	移住者など	<ul style="list-style-type: none"> ・適度な便利さを備えつつ、自然が多く残っている県
諏訪地域懇談会 (諏訪地域振興局)	H29.2	環境団体、 経済団体等 各団体代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪湖の環境改善で、調査研究の実施はよいことだが、できることから対策に着手を ・自然エネの活用と環境保全の調整が必要。県でかじ取りを ・官学連携で特定外来生物の有効な駆除を検討して欲しい ・県の主導により遊休荒廃農地対策や有害鳥獣対策を推進 ・諏訪湖の水質は改善されてきており、今後は「諏訪湖浄化」でなく「諏訪湖再生」としたらどうか ・自然エネの活用が重要。諏訪地域は日照、地熱、小水力などのメリットを生かせる地域。県で主導を ・「諏訪湖ビジョン」に社会的マイノリティの方に関する記述がないのが残念。もっとまなざしを向けてほしい。 ・マイバッグ持参運動に取り組んでいるが、状況は頭打ち。引き続き、県も一緒に推進を。 ・家庭や保育園の食用廃油の回収や、湖岸清掃に取り組んでいるが、環境保全は地道な活動が大切
上小地域懇談会 (上田地域振興局)	H29.3	環境団体、 経済団体等、 各団体代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・震災から年数を経て省エネ意識が低下 ・製造業においては省エネ法等によって取組が進んでいるが、中小企業や家庭の取組はまだまだ。省エネ知識が不足している ・E A 2 1 そのものも、より経営に役立つものに見直された。P D C A サイクルの導入を、運用実態などの指導により県全体で進めてほしい。 ・太陽光発電については、投機目的に走る等、いびつな形となっている面もあるが、手軽に始められてメンテも楽など、自然エネの促進には必要 ・間伐材、松くい被害木の活用も課題であり、木質バイオマスの推進を重点的に考えては ・個々のボイラー利用ではなく、欧州のように地域暖房としての活用が効果的。ひとつの産業にもなるのでは ・バイオマス発電は効率が悪く、熱利用が望ましい ・自然エネの活用は経済の内部循環にも通じる ・今後、化石燃料以外の自動車が主流になるのでは。他の産業も結び付けた新たな産業づくりに県も積極的に関与を。